

《とちぎ海浜自然の家のプログラム》

ビーチコーミングをしよう

時 期	いつでも
時 間	2～4時間
場 所	玉田海岸（海岸線）

○海辺を歩きながら、漂着物を観察したり収集したりして、海を取り巻く環境について考える。

ねらい

- 親しむ** ・海岸での活動を通して、海と自然とのつながりに興味・関心をもつことができるようにする。
- 知る** ・漂着物を観察したり収集したりして、海を取り巻く環境について考える力を育てる。

活動展開例

準備物	準備物		
	・軍手 ・運動靴またはスポーツサンダル ・集めた物を入れる容器 ・記録や製作に必要な道具（ワークシート、模造紙、絵の具、ニス等）		
展開	時 間	活 動 内 容	留 意 点
	10分	○説明を聞く。 今日の海の状態、この時期の海や浜辺の様子、海の危険、海に入ってはいけない場合、海辺でのマナー、けがに対する諸注意等。	・活動の目的や実施時期によって、展開が変わってくるので、事前の打合せを十分に行っておく。（目的、時間、場所、人数、方法、漂着物等） ・地震による津波を警戒し、避難場所や避難経路を確認する。
	60分～100分	○活動する。 〈環境学習の視点で〉 ・人工物が、どこから流れてきたのか、何に使われた物か等を調べ、ワークシート等にまとめる。 〈生物観察の視点で〉 ・貝殻、貝、海草等を拾い、必要に応じて持ち帰る。 〈造形活動や製作活動の視点で〉 ・漂着物を拾う。 （流木、貝殻、浮き、クルミ等） ・制作実験室等で作品を製作する。 ○使用した道具等を確認し、片付ける。	・海岸には那珂川を經由して栃木県から流れてくる物も多い。また、漁業関係の物もよく落ちている。 ・生きている物は観察後に逃がすこと、動物の死がいや危険なものには触れないことなどを話す。 ・海岸植物や海鳥の観察と組み合わせてもよい。

中学年



高学年



活用ガイド

○展開例

- 目的によって活動の展開が変わってくるプログラムです。
たとえば、次のような視点で行う活動が考えられます。
- ・落ちているものから、元あった場所、土地柄、国などを推理するといった、環境学習の視点で行う活動
 - ・貝殻や海藻など、海の生物を調べるといった、生物観察の視点で行う活動
 - ・浜辺にあるものを見つけたり、思い出として持ち帰ったりする活動
 - ・流木や貝殻などを拾い、それらを材料にして行う造形活動や製作活動（漂流アート、オブジェ）



○作品例



○自然の家の近くに打ち上げられる漂着物

動物 貝殻……タマキガイ、サトウガイ、ハマグリ、ウバガイ（ホッキガイ）、ムラサキイガイなどが多い。二枚貝が多く、巻き貝は少ない。

魚など…大変少ないが、生きているフグやイワシなどが打ち上げられることがある。

ウミガメやサメの死がいも、まれに打ち上げられることもある。

カニのハサミや甲羅、フジツボ、イカの甲など。

鳥……ミズナギドリという水鳥など、渡り鳥の死がいも多数打ち上げられることがある。

植物 流木…台風や海の荒れた後に多く打ち上げられる。竹も多い。

海藻類…春に多い。「海藻押し葉アート」としても使える。

クルミ…川から流れてきたものが打ち上げられる。

鉱物 石……軽石が多い。化石が見つかることもある。

人工物 ルアー…金属やプラスチックでできた小魚に似せた疑似餌。
魚釣り用の浮き・おもり…派手なもの、魚やたこに似せたものなど。



中学年



高学年



ひょうちゃくぶつ ちょうさ 漂着物を調査しよう

じっし
実施日 年 月 日() 名前

○流れ着いた物を調べてみましょう。

	見つけたもの	どんなものか	どこからきたか	何からできているか
多かったもの		自然物 人工物 わからない	日本 外国 わからない	
気になったもの		自然物 人工物 わからない	日本 外国 わからない	
おどろいたもの		自然物 人工物 わからない	日本 外国 わからない	
その他				

中学年



高学年



漂着物のストーリーを作ろう

じっし
実施日

年

月

日()

名前

○流れ着いた物の中から、物語になりそうなものを一つ選びましょう。

選んだもの

○その漂着物は、いつ、どのような人が、どこで、どのように捨てたか推理^{すいり}しましょう。

(いつ)

(どのような人が)

(どこで)

(どのように)

中学年



高学年



○自分がその漂着物になったつもりで、流れ着くまでのあらすじを考えよう。

はじめ	
中	
おわり	